

## 空港・航空保安施設のあり方を巡る諸課題・論点の例

## 1. 総論

- ・ 経済社会情勢の変化を踏まえ、今後の空港及び航空保安施設の目指すべき方向性は何か。
- ・ 我が国拠点空港の国際競争力をいかにして高めていくか。
- ・ 東アジアとのシームレスな航空物流の実現を図るためには、どのような方策が必要か。
- ・ 地域のポテンシャルを最大限活かすために、空港をどのように活用していくべきか。
- ・ 空港の利用者の視点に立った場合に欠けている取り組みは何か。
- ・ 今後の航空需要（国際旅客、国内旅客、国際貨物、国内貨物）や航空交通量はどのように予測されるか。
- ・ 空港及び航空保安施設の整備において、具体的なアウトカム指標（成果目標）とすべきものは何か。

## 2. 空港

- ・ 再拡張後の羽田空港、北伸後の成田空港をどのように活用していくか。
- ・ 首都圏の将来の航空需要は、羽田空港の再拡張事業、成田空港の北伸事業で十分まかなえるか。
- ・ 関西国際空港、中部国際空港をどのように活用していくか。
- ・ 首都圏、関西圏等における複数空港の役割分担をどう考えるか。
- ・ 伊丹空港の空港整備法上の位置付けをどのように考えるべきか。
- ・ 福岡、那覇等その他の都市圏の空港整備の必要性はどうか。
- ・ 空港アクセスの充実など他インフラとどう連携していくか。
- ・ 一般空港は、配置的側面からの整備は概成しているが、今後その質的充実をどのように図っていくべきか。

### 3. 航空保安施設

- ・ 今後とも航空交通量の増加が見込まれるなか、安全を確保しつつ、十分な空域容量の確保、航空機の運航効率の向上をどのように図っていくか。
  - － RNAV (広域航法) の導入などの航空路、及び空域の再編をどのように進めていくべきか。
  - － 運輸多目的衛星 (MTSAT) をはじめとする衛星システムの活用により航空交通の安全と効率をどのように高めていくべきか。
  - － ATM (航空交通管理) センターの機能強化、航空管制への最新技術の導入など次世代航空交通システムの展開をどのように進めていくべきか。
- ・ ILS (計器着陸装置)、RNAV 整備等による就航率の向上をどのようにして図っていくか。
- ・ 小型機の安全対策をどう充実させていくか。

### 4. 維持・更新、安全・安心、環境

- ・ 空港及び航空保安施設の老朽化が進むなか、今後の維持・更新投資は、どのような水準を確保していくべきか。
- ・ 空港の耐震対策は、どのような考え方の下に実施していくべきか。
- ・ セキュリティ確保等といった空港・航空路の安全な管理運営に向けどのような方策を講じていくべきか。
- ・ 航空機の低騒音化等を踏まえ、今後の環境対策はどうあるべきか。

### 5. 空港整備特別会計

- ・ 公共事業関係の特別会計の統合を踏まえ、空港整備特別会計の収支の透明性をどのように確保、向上していくべきか。
- ・ 今後の空港整備特別会計に係る収支の長期的な見通しはどうか。

- ・ 空港整備特別会計の将来における独立行政法人化等の検討について、課題等を整理する必要があるのではないか。
- ・ 着陸料、航行援助施設利用料等について、諸外国の事例も参考にしつつ、そのあり方を検討する必要があるのではないか。

#### 6. 国際拠点空港の民営化

- ・ 成田空港をはじめとする国際拠点空港の完全民営化に向けて、その運営等への政府関与や株式売却益の活用方策のあり方をどのように考えるべきか。
- ・ 関西空港会社の経営基盤をどのように強化していくべきか。

#### 7. その他